

(案)

(様式)

## 助成事業2010年度進行報告書

宛 先：日本財団 御中

報告日付：平成23年 4月 日

事業ID：2007611265

事業名：海洋国家日本を支える教育研究拠点の  
構築（日本財団講座）

団体名：東京大学海洋アライアンス

TEL：04-7136-6037

FAX：04-7136-6039

「2008年度助成契約書第8条」の規定により下記のとおり報告致します。

### 記

1. 組織概要	P 2
（1）設置年月日	P 2
（2）参加部局の構成	P 2
（3）活動目的	P 2
（4）研究内容	P 2
2. 平成22年度事業の実施状況	P 3
（1）運営にかかる会議	P 3
（2）教育活動	P 3
① 教育の運営にかかる会議	P 3
② 海洋学際教育プログラム	P 4
③ 全学体験ゼミナール	P 5
（3）研究活動	P 5
① 海洋政策学ユニット	P 6
② 学際海洋学ユニット	P 8
（4）アウトリーチ活動	P 13
① 東京大学海洋アライアンスシンポジウム	P 13
② 出版記念セミナー	P 14
③ 東京大学海洋アライアンス・日本財団共同シンポジウム	P 14
④ ポータルサイト運営	P 15
⑤ 出前授業	P 16
⑥ 知の羅針盤	P 17
⑦ イブニングセミナー	P 18
（5）研究支援活動	P 19
① ワークシップ	P 19
② イニシャティブ	P 19

# 1. 組織概要 (別添資料 A : 海洋アライアンス概要パンフレット) (別紙 1 : 構成員一覧)

(1) 設置年月日 平成19年7月3日

## (2) 参加部局の構成

大学院教育学研究科、大学院総合文化研究科、大学院理学系研究科、大学院工学系研究科、大学院農学生命科学研究科、大学院新領域創成科学研究科、大学院公共政策学連携研究部・教育部 (通称: 公共政策大学院) 地震研究所、東洋文化研究所、生産技術研究所、史料編纂所、大気海洋研究所、アジア生物資源環境研究センター

上記 13 部局からなる研究者数 231 名 (平成 22 年 7 月現在)

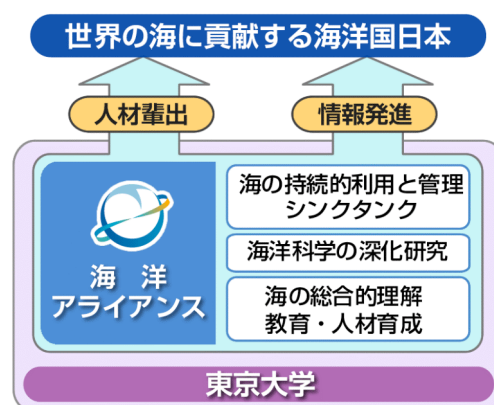
## (3) 活動目的

海に関わる教育研究の部局横断的なネットワーク組織として、次世代を担う総合的人材の育成に取り組むとともに、海に関わる現代的課題の発掘と、その解決のためのシンクタンクの役割を果たし、もって海洋関連分野における教育研究の国際的な核を形成することを目的とする。

## (4) 研究内容

これまで個別に行われてきた海洋関連分野を海洋科学に統合し、複雑で複合的・多様な海洋問題に対して、それぞれの専門知識を用いて様々な角度からの議論を展開し、統合的な知見を深める研究の実践を目指す。各部局・専攻内で行われている専門性の高い研究を推進する研究者が、時局にあわせていくつかの個別の大テーマの下に集まって学際的研究を展開し、同時に得られた科学的知見を政策等で社会に還元し、環境問題等の解決に貢献する。

総合海洋基盤 (日本財団) プログラムによる「海洋政策学ユニット」、「学際海洋学ユニット」が先の研究を強力にバックアップする。



(案)

## 2. 平成22年度事業の実施状況

### (1) 運営にかかわる会議

(別紙2：評議会名簿、別紙3：推進委員会名簿、別紙4：運営委員会名簿)

総合海洋基盤（日本財団）プログラムについては、機構内部としては海洋アライアンスの行う評議会、推進委員会、運営委員会の審議を経て、貴財団との協議は総合海洋基盤（日本財団）プログラム連絡会議での審議を経て実施している。

(2010年)

4月 7日：第1回運営委員会  
4月14日：第1回推進委員会  
4月20日：第1回総合海洋基盤（日本財団）プログラム連絡会議  
5月12日：第2回運営委員会  
6月 2日：第3回運営委員会  
6月 7日：第2回総合海洋基盤（日本財団）プログラム連絡会議  
6月22日：第1回評議会  
7月 6日：第4回運営委員会  
7月 7日：第2回推進委員会  
7月26日：第3回総合海洋基盤（日本財団）プログラム連絡会議  
9月 7日：第5回運営委員会  
9月 7日：第3回推進委員会  
9月14日：第2回評議会  
9月29日：第4回総合海洋基盤（日本財団）プログラム連絡会議  
10月 5日：第6回運営委員会  
11月 4日：第7回運営委員会  
11月 5日：第4回推進委員会  
11月15日：第5回総合海洋基盤（日本財団）プログラム連絡会議  
12月21日：第8回運営委員会

(2011年)

1月11日：第9回運営委員会  
1月12日：第5回推進委員会  
2月 1日：第10回運営委員会  
2月 8日：第3回評議会  
3月 1日：第11回運営委員会  
3月 2日：第6回推進委員会

\* 評議会、運営委員会、推進委員会は海洋アライアンスの活動全般を決定する機関であり、総合海洋基盤（日本財団）プログラムの活動は、海洋アライアンス活動の一部に位置づけられる。

### (2) 教育活動

#### ①教育の運営にかかわる会議（別添資料B：東京大学横断型教育プログラムチラシ 別紙5：教育プログラム作業委員会名簿）

平成21年4月から、本学において実施されている学際的あるいは分野融合的な部局横断型教育プログラムの一環として、本機構による「海洋学際教育プログラム」が開講された。その運営にかかわる会議として、海洋学際教育プログラム作業委員会があり、3ヶ月に1回開催され、審議

(案)

している。

また、部局横断型教育プログラムとして、本機構のプログラムを含む5つの教育プログラムの担当部局による部局横断型教育プログラム連絡会が、5つの教育プログラムの問題解決に向け検討・審議している。

(2010年)

- 4月12日：平成22年度第1回海洋アライアンス海洋学際教育プログラム作業委員会
- 7月6日：平成22年度第2回海洋アライアンス海洋学際教育プログラム作業委員会
- 9月7日：平成22年度第3回海洋アライアンス海洋学際教育プログラム作業委員会
- 11月15日：平成22年度第4回海洋アライアンス海洋学際教育プログラム作業委員会
- 12月20日：平成22年度第5回海洋アライアンス海洋学際教育プログラム作業委員会
- 12月21日：平成22年度第1回部局横断型教育プログラム連絡会

(2011年)

- 2月14日：平成22年度第5回海洋アライアンス 海洋学際教育プログラム作業委員会

## ②海洋学際教育プログラム（別添C：海洋学際教育プログラムシラバス）

大学院学生（修士/専門職学位/博士課程）を対象に次世代を担う海の総合人材の育成を目指す海洋学際教育プログラムは、平成21年4月に開講し、2年目を迎え、常時70名ほどの学生が受講し、順調に実施され、今年度末には、17名の初めての修了生を送り出すことができた。

海洋政策学ユニットは、選択必修科目として、国際海洋法制度概論（西村弓、許淑娟）、沿岸域管理法制度論（交告尚史、三浦大介〔非常勤〕）、海事産業・政策論（長谷知治）、海洋科学技術政策論（松浦正浩、城山英明）を開講し、必修科目として、事例研究：海洋問題演習Ⅴa・Ⅴb（長谷知治、松浦正浩、許淑娟）を開講し、講義を行った。

学際海洋学ユニットは、海洋生物資源利用論（八木信行、古谷研）、海洋法・海洋政策インターンシップ実習（高橋鉄哉、木村伸吾）、海洋工学基礎（佐藤慎司、村山英晶）、海洋基礎科学（浦辺徹郎、赤坂甲治他）を選択必修科目として、海洋問題演習（Ⅰ：理学系、Ⅱ：工学系、Ⅲ：農学系、Ⅳ：新領域）を必修科目として開講し、講義を行った。

ほかに海洋アライアンス推奨科目として10科目を選定し、修了に必要な単位を履修した学生には、修了証を交付した。

必修の海洋問題演習は、夏学期はいろいろな分野の専門家を招いて講義を行い、冬学期はテーマを設け、5・6人のチームに分かれ、議論した結果を発表し、優秀な発表を行ったチームには昨年度同様、表彰状及び賞品を授与した。優秀な発表が相次ぎ、学生にも他分野の学生と行う調査や議論を通じて提言をまとめることは好評で、演習の最終修了者は40名であった。

(2010年)

- 4月5日：選択必修科目「国際海洋法制度概論」開講日
- 4月9日：推奨科目「海洋環境創造論」開講日
- 4月12日：海洋学際教育プログラム・ガイダンス
- 4月13日：推奨科目「水環境論」開講日
- 4月15日：選択必修科目「海事産業・政策論」開講日
- 4月17日：推奨科目「国際水産開発学総論」開講日
- 4月19日：選択必修科目「海洋工学基礎」開講日
- 同：選択必修科目「海洋生物資源利用論」開講日
- 同：必修科目「海洋問題演習」開講日
- 4月30日：海洋学際教育プログラム履修登録締切（63名）
- 5月17日：インターンシップのガイダンス
- 10月4日：選択必修「海洋科学技術政策論」開講日
- 同：推奨科目「国際空間秩序と法」開講日

(案)

- 同 : 冬学期オリエンテーション、「海洋問題演習」開講日
- 10月 5日 : 推奨科目「海洋生物学」開講日
- 同 : 推奨科目「海洋底ダイナミクス」開講日
- 同 : 選択必修「沿岸域管理法制度論」開講日
- 同 : 推奨科目「科学技術と公共政策」開講日
- 10月 7日 : 推奨科目「海事技術イノベーション」開講日
- 10月 8日 : 選択必修科目「海洋基礎科学」開講日
- 同 : 推奨科目「海岸漂砂論E」開講日
- 10月29日 : 海洋学際教育プログラム履修登録10月入学者締切(総計71名)
- 11月11日 : 推奨科目「水域保全学」開講日
- 11月15日 : 海洋問題演習第1回チーム発表会
- 12月20日 : 海洋問題演習第2回チーム発表会

### ③全学体験ゼミナール「海で学ぶ—臨海実験所における海洋体験実習—」

(別紙6:全学体験ゼミナール)

学部学生1・2年生を対象に、大学院理学系研究科・理学部附属臨海実験所(神奈川県三崎市)において、海洋生物学だけでなく、広く理学・工学・農学における海洋分野の研究に関連する実習や演習を、短期集中講義として、宿泊施設を利用した合宿で実施し、海洋という幅広い分野を総合的に考えることができる人材の育成に供した。

8月 2日～8月 4日(2泊3日) : 集中講義(参加者18名)

### (3) 研究活動

海洋アライアンスとして、今年度計画していた研究テーマは、以下のとおりである。

- 1) 海底開発技術の発展と開発利用をめぐる政策決定
- 2) 深海底科学と開発利用をめぐる政策決定
- 3) 海運ネットワークと海洋セキュリティ
- 4) 東アジアの海の統合管理政策の形成
- 5) 沿岸域統合管理における海洋環境保護および資源保存
- 6) 地球環境科学と海洋統合管理
- 7) 「海の帝国」と21世紀の海洋秩序
- 8) 海洋機能遺伝子と生物多様性をめぐるポリティクス
- 9) 海洋エネルギー洋上基地開発とエネルギー政策
- 10) 海洋性食料生産システムと食料安全保障

総合海洋基盤(日本財団)プログラムでは、海洋政策学ユニット(ユニット長:城山英明 公共政策大学院/大学院法学政治学研究科教授)および学際海洋学ユニット(ユニット長:福代康夫 アジア資源環境研究センター教授)が次のような教育・研究活動を行っている。

#### ①海洋政策学ユニット

##### a) 教育活動

- ・公共政策大学院の専門職修士課程学生を対象に海洋問題演習Va およびVb を開講し、いわゆる文系学生にも海洋の多様な問題群に対して関心を高め、導入となる知見を教授した。
- ・海洋学際教育プログラムに位置づけられる、海洋科学技術政策論(選択必修1)、国際海洋法

(案)

制度概論、沿岸域管理法制度論、海事産業・政策論（以上選択必修2）、科学技術と公共政策、国際空間秩序と法（推奨科目）を、公共政策大学院において開講した。

- ・ 駒場総合科目「海の魅力と海の基礎Ⅱ」において、教養課程の学生を対象に公共政策と海上交通の関係に関する知見を教授した。

## b) 研究活動

### b-1) 海洋政策勉強会の開催

- ・ 国内の学識経験者、行政機関、業界関係者など講師を約10名招聘し、多種多様な観点からの勉強会を実施し、日本の海洋政策の現状と課題を析出した。

(2010年)

6月18日午後：海洋政策学ユニット勉強会

6月21日午後：海洋政策学ユニット勉強会

7月2日午前：海洋政策学ユニット勉強会

7月21日午後：海洋政策学ユニット勉強会

9月24日午後：海洋政策学ユニット勉強会

12月24日午後：海洋政策学ユニット勉強会

(2011年)

3月4日午前：海洋政策学ユニット勉強会

### b-2) 海上輸送に関する研究

- ・ 持続可能な海上交通ネットワークの構築のため、マラッカ・シンガポール海峡についての航行安全に係る協力のメカニズム、航行状況に係るシミュレーション等の検討を引き続き行った。
- ・ 海洋における多様な技術・産業とそれぞれに関連する政策（国内外）に関する文献、資料等の収集、海洋に関連する交渉と合意形成の事例や海外における海事振興策について引き続き情報収集を行った。

### b-3) 国際的な政策課題に関する研究

- ・ 国内外の海洋に関する政策課題、法的課題の把握の一環として、国境離島における海洋安全保障状況・課題の把握を行った。
- ・ 海洋法における諸問題の整理分析を行い、国際法専門家を中心に研究会を実施し、成果の一部を成果の一部を学術誌に発表した。
- ・ アジア地域の海上国際交通秩序をテーマに、多様な課題を越えて持続可能な海上交通のあり方について考察するため、アジアの主要なステークホルダーの参加を得て、国際ワークショップを開催した。

### b-4) 海洋に関する合意形成の方法論に関する研究

- ・ 海洋に関する政策形成に係る公衆の問題意識の顕在化に係る研究として、特に、海洋政策に関心の弱い人々の意向を掘り起こすため、「うみあるき」手法と情報技術（Google Earth や GPS）を活用したプラットフォームを開発し、お台場で実証実験を行った。
- ・ 洋上風力発電と漁業との共生について、ステークホルダーへの聞き取り調査を行い、合意形成のための議論の実証実験への準備を進めた。
- ・ 昨年度に引き続き、米国およびオランダの港湾における地元コミュニティとの関係・参加やインターモーダルな仕組み等に関する現状・課題の把握を行った。

### b-5) 研究に向けた連携構築

- ・海外の研究機関、教育研究機関、国際機関、政府機関等の海洋政策担当者、海洋法研究者との連携を構築した。とりわけ、海洋空間計画を中心に米国ウッズホール海洋生物学研究所海洋政策センターとの連携を深めた。
- ・国内外の海洋に関する政策課題、法的課題の把握の一環として、四国における港湾を活用したまちづくり、フェリー、造船、船主、離島航路等の現状・課題の把握を行った。

**b-6) 海洋科学調査をめぐる法的諸問題に関する研究**

- ・海洋科学調査の実施に関わる国際法・国内法上の法的諸問題について、独立行政法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）と共催で、関連省庁・業界からの参加者を交えて勉強会を開催し、海洋科学調査の実施に携わっている研究者からの聴取をもとに、法的な検討を進めた。勉強会において検討を進めた成果は、研究論文の形で『「海洋科学調査をめぐる法的諸問題」研究報告書』に取りまとめた。この一部は『ジュリスト』1409号（2010年）に掲載された。

**b-7) 離島の振興と離島をモデルとした海洋管理に関する総合的研究**

- ・対馬を中心に都市間連携・観光による取り組みや離島航路船舶の建造支援など各種施策の調査とりまとめ、協議会方式等航路運営に係る意思決定方策の検討等を実施したほか、海洋空間計画による海洋管理の方策の一つとして対馬における、漁業区域、航行区域等のオーバーレイを実施し可視化を実施した。

**b-8) うみあるき 2.0 の開発**

- ・ソーシャルメディアの Twitter の位置特定機能を利用して、離島や沿岸域の観光振興や民俗学調査に応用可能なリアルタイムマッピングシステムを作成した。システムは php 言語で制作し、ほぼすべての携帯端末から投稿できるほか、PC ブラウザ（Chrome）のほか iPhone および Android 端末でもツイートを地図上で確認できる。

**c) 会議・シンポジウムへの参画**

- ・海洋アライアンスシンポジウムにおいて「国連海洋法条約における海洋科学調査とは何か」および「「うみあるき」ICTプラットフォーム」にかかる発表を行った。
- ・アジア地域の海上国際交通秩序をテーマに、多様な課題を越えて持続可能な海上交通のあり方について考察するため、アジアの主要なステークホルダーの参加を得て、国際ワークショップを開催した。

**d) ユニットにおける会議等**

- ・海洋政策勉強会（b-1 参照）の前後に関係者による打ち合わせ、会議を実施。
- ・研究者がインフォーマルに交流できる環境を逐次整備しており、会議以外にも、日常的な face-to-face の交流による情報交換を推進。

**②学際海洋学ユニット**

**a) 教育活動**

- ・海洋学際教育プログラムの必修科目「海洋問題演習」等の企画・実施を行った。
- ・海洋学際教育プログラムの選択必修科目「海洋生物資源利用論」の講義を夏学期を通じて担当した。
- ・教養課程科目である「海の魅力と海の基礎」（駒場）の講義を2コマ、「水圏生物学」（駒場）の講義を6コマ、農学系大学院科目である「国際水産開発学総論」の講義を1コマ、工学系大学院科目である「システム創成学持論」の講義を1コマ、新領域系大学院科目「海洋生態系モデリング」の講義6コマをそれぞれ実施した。

(案)

- ・学際教育プログラムの選択必修科目「海洋法・海洋政策インターンシップ実習」として、国土交通省総合政策局、NPECとの間に、教育・キャリアパス形成のための派遣研修プログラムを構築し、実際に学生を派遣して政策形成プロセスの実践的講習を実施した。

#### b) 研究活動

- ・平成22年度農林水産政策科学研究委託費を獲得し、「我が国水産業へのITQの適用可能性に関する法学的・経済学的分析」を実施した。
- ・科学研究費補助金「熱帯種をモデルとしたウナギ資源変動機構の解明」を獲得し、インドネシアスラウェシ島で熱帯ウナギに関する調査を実施した。
- ・科学研究費補助金「最新の生理生態情報に基づくウナギ大量種苗生産技術の実現」に分担研究者として参加し、マリアナ諸島西方海域におけるウナギ産卵場調査航海に参加し、産卵回遊中のニホンウナギの捕獲に成功した。
- ・科学研究費補助金「自然エネルギーを利用した高次水産生物レスキューシステム」を獲得し、大村湾で底生生物のバイオリギングと同時に水質モニタリングを実施して、環境変化に伴う生物移動のメカニズムについて研究を実施した。
- ・南西諸島・北東伊是名海域において新たに開発した化学センサを用いた熱水ブルーム探査を実施し、新たな海底熱水活動の発見に成功した。
- ・科学研究費補助金「海洋多項目複合計測に向けた多機能センサの開発と運用」を獲得し、半導体化学センサを応用した高感度pHセンサの試作、試験運用を実施した。
- ・新学術領域「海底下の大河：地球規模の海洋地殻中の移流と生物地球化学作用」に分担研究者として参加し、化学センサを用いた熱水ブルーム探査航海に参加した。
- ・科学研究費補助金「わが国におけるシガテラ魚毒の発生とその広域化」を獲得し、わが国で発生している熱帯性食中毒シガテラの原因生物に関する調査を実施した。
- ・科学研究費補助金「東南アジアにおける有毒微細藻類の発生と海洋生物の毒化機構」を獲得し、ベトナム沿岸や、タイ湾奥部で有毒微細藻類に関する調査を実施した。

#### c) 海洋アライアンスのイニシャティブ活動

以下の課題について、国内の学識経験者、行政機関、業界関係者などを招聘し、多種多様な観点から検討する勉強会を各課題とも2-3ヶ月に1回程度実施した。以下は学際海洋学ユニットメンバーが代表を務めるイニシャティブである。

##### c-1) 「里海」の成立メカニズムを科学する

日本が伝統的に実施してきた沿岸での水産資源管理について、その実態を調査し、当事者間の利害調整のメカニズムを環境経済的な理論やを用いて分析し、結果を、国際ジャーナルである「Marine Policy 誌」で発表した。

##### c-2) 学際的海洋教育に関する研究

学際的海洋教育を行っている大学、内閣官房海洋総合政策局などの省庁、さらに関連研究を実施している民間シンクタンクに呼びかけて、定期的な研究会と公開セミナーを行い、現状ではまだまだ内容の乏しい学際的海洋教育が、将来的にとりいれるべきモデルコンテンツを明らかにする研究を行った。

##### c-3) 海洋生物の多様性保全と利用に関する学生フォーラム

2010年10月に名古屋で開催された生物多様性条約COP10の場外イベントを学生主導で企画し、実行するための活動を行った。具体的には、2010年7月に東京大学水産実験所(浜名湖)で合宿形式の研究セミナーを行い、その結果を学生が取りまとめて、COP10の場外イベントで発表する活動を実施した。

#### d) ユニット教員会議その他の会議日程

(2010年)

4月19日：第12回学際海洋学ユニット担当教員会議



(案)

- 5月24日：第13回学際海洋学ユニット担当教員会議
  - 8月21日：第14回学際海洋学ユニット担当教員会議
  - 9月2日：第15回学際海洋学ユニット担当教員会議
  - 10月4日：第16回学際海洋学ユニット担当教員会議
  - 11月15日：第17回学際海洋学ユニット担当教員会議
  - 12月20日：第18回学際海洋学ユニット担当教員会議
- (2011年)
- 2月14日：第19回学際海洋学ユニット担当教員会議

#### e) ユニット教員活動記録程

青山特任准教授

(2010年)

- 5/3 東京国際フォーラムで行われた全国私立中学合同相談会にて招待講演を行った。
- 6/22 仙台市戦災復興記念館で行われた「うなネット東北設立準備会」にて招待講演を行った。
- 7/24 新幹線社内誌「ひととき」監修。
- 7/26 FMトウキョウ「クロノス」「ウナギの興味深い話」出演。
- 7/26 TBSラジオ「Dig」出演。
- 7/27-9/22 研究航海(水産庁開洋丸第3次ウナギ産卵場調査航海:マリアナ西方海域)に参加し、産卵中のニホンウナギの採捕に成功した。
- 10/2 銀座三笠会館で行われた東京蒲焼商組合総会にて招待講演を行った。

(2011年)

- 1/27 東大山上会館にてニホンウナギ卵発見の記者会見。
- 2/16 ベイFM「フrintストーン」出演。
- 2/17 ベイFM「パワーベイモーニング」出演。
- 3/22 J-WAVE「ワンダフルエッセンス」出演。

福場特任准教授

(2010年)

- 6/10 第21回化学とマイクロ・ナノシステム研究会(東京)に参加し、現場型分析装置の開発に関するポスター発表を行った。
- 6/17 電気学会・センサマイクロマシン部門総合研究会(東京)に参加し、現場型pHセンサの開発に関する口頭発表を行った。
- 7/12 海洋アライアンスシンポジウム第5回東京大学の海研究「地球システムとしての海」において講演を行った。
- 7/29 第98回海中工学研究センター勉強会「MIND」(JAMSTEC 横須賀)において現場型分析装置の開発に関する招待講演を行った。
- 9/4-9/11 研究航海(なつしまNT-10-16)を主席研究員として主催し、南西諸島海域において新規熱水活動を発見した。
- 9/17 南西諸島海域における新規熱水活動の発見について、記者会見を行った。関連する報道が朝日新聞、毎日新聞、日経新聞等においてなされた。
- 10/14 TechnoOcean 2010(神戸)に参加し、現場型センサの開発及び新規熱水活動の発見についてお口頭およびポスター発表を行った。
- 10/15 海のフロンティアを拓く岡村健二賞を受賞した。
- 11/10 Trench Connection, International Symposium on the deepest Environment on Earth(東大海洋研)において、現場型センサの開発に関する招待講演を行った。
- 11/23-12/13 研究航海(白鳳丸KT-10-05)に参加し、インド洋ロドリゲス三重合点海域において

(案)

て熱水ブルームマッピング及び探査に参画した。

(2011年)

- 1/14 BS ジャパン「世の中進歩堂」にて、現場型センサの開発及び新規熱水活動の発見に関する内容が放映された。
- 2/22-2/24 Underwater Intervention (米国・ニューオーリンズ)に参加し、現場型センサおよび関連研究に関する展示を行った。
- 3/4 東大海洋アライアンス・日本財団共同シンポジウム「我が国における海洋教育および研究のあり方」において計画立案、および会場設営など事務局活動を担当した。
- 3/7 ブルーアース' 11 (東京) において現場型センサを用いた新規熱水活動の探査に関する口頭発表およびポスター発表を行った。

八木特任准教授

(2010年)

- 6/8 GLOBE (the Global Legislators Organization) 主催, World Oceans Day Meeting で招待講演を行った。場所はロンドンの英国国会議事堂内。
- 6/22 NHK総合テレビ放送「クローズアップ現代」解決なるか?クジラをめぐる対立でコメンテーターを務めた。2010年6月22日19:30-20:00 放映。
- 7/6 日本財団主催シンポジウム「魚のいない海」で、グローバル社会の中での漁業との題で発表を行った。
- 7/16 国際学会である International Institute of Fisheries Economics and Trade (IIFET)にて、海洋アライアンスイニシヤチブの成果「Coastal marine protected areas in Japan and their institutional characteristics」を発表した。場所はフランスのモンペリエ。
- 9/6 国連訓練調査研究所 (UNITAR) 主催 Series on Sea and Human Security (国連大学青山校舎)にて招待講演を行った。
- 9/21 独立行政法人海洋研究開発機構 (JAMSTEC) 主催検討会にて海洋アライアンスイニシヤチブの成果「生物多様性条約と海洋保護区」を発表した。
- 9/24 水産学会にて海洋アライアンスイニシヤチブの成果「日本における海洋保護区 (MPA) の設定状況とその特徴」を発表した。場所は京都大学。
- 10/16 海洋アライアンス主催ワークショップ「海洋の生物多様性を考える」を組織し、外国人後援者を招待するとともに、本人も Coastal marine biodiversity and eco-labeling in Japan を発表した。また学生も、前出「海洋生物の多様性保全と利用に関する学生フォーラム」の成果を英語で発表した。場所は名古屋市。
- 10/21 生物多様性条約 COP10 公式サイドイベント第 137 番 ID1739 にて Fisheries managements and marine conservation activities in Japan を発表した。場所は名古屋国際会議場。
- 10/26 GLOBE (the Global Legislators Organization) 主催, 地球環境ファシリティー (GEF) 及び国連環境計画 (UNEP) 後援. Nagoya Parliamentarians Forum “Valuing Natural Capital to Mainstream Biodiversity” にて招待講演を行った。場所は名古屋国際会議場。
- 11/29 国土交通省主催海洋政策研究会にて「海洋保護区について: COP10 の結果を中心に」との発表を行った。場所は霞ヶ関合同庁舎。
- 12/10 海洋アライアンス主催ワークショップ「築地市場の将来像: 水産物価格形成の国際比較」を企画組織し、外国人後援者を招待するとともに、本人も Value chain analysis on fisheries product in Japan との発表を行った。場所は東大キャンパス。

f) ユニット教員学術論文等の業績

1. 八木信行 (2011). 生物多様性と海洋保護区. ジュリスト 1417: 38-43.
2. 大石 卓史, 大南 絢一, 田村 典江, 八木 信行 (2010). 水産エコラベル製品に対する消費者の潜在的需要の推定. 日本水産学会誌. 76: 26-33.
3. Yutaro Sakai, Takahiro Matsui, Nobuyuki Yagi, Yoshihito Senda, Hisashi Kurokura (2010) Econometric analysis for the factors for the fish price increase in coastal TURFs in Japan: the case of income-pooling fishery for coastal shrimp "Sakuraebi *Sergia lucens*". Fisheries Science 76 (4) 711-718
4. Nobuyuki Yagi, Akira P. Takagi, Yukiko Takada, Hisashi Kurokura (2010) Marine protected areas in Japan: Institutional background and management framework. Marine Policy 34 :1300-1306
5. 八木信行 (2011). (分担執筆) 海洋保護区等への取組み. 海洋白書 2011. 海洋政策研究財団編. 東京. pp51-56.
6. 八木信行 (2010). (分担執筆) 水産物エコラベル. 寶多康弘・馬奈木俊介編「資源経済学への招待」ミネルヴァ書房. 東京. pp 165-171.
7. Nobuyuki Yagi, Yukiko Takada and Hisashi Kurokura. (2010). Coastal marine protected areas in Japan and their institutional characteristics. Proceedings of the Fifteenth Biennial Conference of the International Institute of Fisheries Economics & Trade, July 13-16, 2010, Montpellier, France: Compiled by Ann L. Shriver. International Institute of Fisheries Economics & Trade, Corvallis, Oregon, USA.
8. 青山 潤 (2010) 遺伝子解析. 魚類生態学の基礎 (塚本勝巳編) pp87-98. 恒星社厚生閣. 東京.
9. Inoue JG, Miya M, Miller MJ, Sado T, Hanel R, Hatooka K, Aoyama J, Minegishi Y, Kawakami T, Aoyama J, Tsukamoto K. (2010) Morphology of pelagic fish eggs identified using mitochondrial DNA and their distribution in waters west of the Mariana Islands. *Environmental Biology of Fishes*, 87, 221-235.
10. Chow S, Kurogi H, Katayama S, Ambe D, Okazaki M, Watanabe T, Ichikawa T, Kodama M, Aoyama J, Shinoda A, Watanabe S, Tsukamoto K, Miyazaki S, Kimura S, Yamada Y, Nomura Y, Tanaka H, Kazeto Y, Hata K, Handa T, Tawa A, Mochioka N. (2010) Japanese eel *Anguilla japonica* do not assimilate nutrition during the oceanic spawning migration: evidence from stable isotope analysis. *Marine Ecology Progress Series* 402, 233-238.
11. Kawakami T, Aoyama J, Tsukamoto, K (2010) Morphology of pelagic fish eggs identified using mitochondrial DNA and their distribution in waters west of the Mariana Islands. *Environmental Biology and Fishes*, 87, 221-235.
12. Inoue JG, Miya M, Miller MJ, Sado T, Hanel R, López JA, Hatooka, K, Aoyama J, Minegishi Y, Nishida M, Tsukamoto K (2010) Deep-ocean origin of the freshwater eels. *Biology Letters*, 6, 363-366.
13. Kaifu K, Tamura M, Aoyama J, Tsukamoto K (2010) Dispersal of yellow phase Japanese eels *Anguilla japonica* after recruitment in the Kojima Bay-Asahi River system, Japan. *Environmental Biology of Fishes*, 88 (3), 273-282.
14. 塚本勝巳・青山 潤・渡邊 俊 (2010) 新標準和名「ニホンウナギ」の提案. 魚類学雑誌. 57 (2), 184-185.
15. Tsukamoto K, Chow S, Otake T, Kurogi H, Mochioka N, MillerMJ, Aoyama J, Kimura S, Watanabe S, Yoshinaga Y, Shinoda A, Kuroki M, Oya M, Watanabe T, Hata K, Ijiri S, Kazeto Y, Nomura K, Tanaka H. (2011) Oceanic spawning ecology of freshwater eels in the western North Pacific. *Nature Com*. DOI: 10.1038.
16. Miller MJ, Wouthuyzen S, Ma T, Aoyama J, Suharti SR, Minegishi Y, Tsukamoto K (2011) Distribution, diversity and abundance of garden eel leptocephali off west Sumatra, Indonesia. *Zoological Studies* 50: 177-191.
17. Watanabe K, Hatase H, Kinoshita M, Omuta K, Bando T, Kamezaki N, Sato K, Matsuzawa Y,

- Goto K, Nakashima Y, Takeshita H, Aoyama J, Tsukamoto K (2011) Population structure of the loggerhead turtle *Caretta caretta*, a large marine carnivore that exhibits alternative foraging behaviors. *Marine Ecology Progress Series* 424:273-283.
18. Watanabe S, Miller MJ, Aoyama J, Tsukamoto K. (2011) Analysis of vertebral counts of the tropical anguillids, *Anguilla megastoma*, *A. obscura*, and *A. reinhardtii*, in the western South Pacific in relation to their possible population structure. *Environmental Biology of Fishes* [In press].
  19. Sudo R, Suetake H, Suzuki Y, Utoh T, Tanaka S, Aoyama J, Tsukamoto K (2011) Dynamics of reproductive hormones during downstream migration in Japanese eels, *Anguilla japonica*. *Zoological Science* [In press].
  20. Kaifu K, Yokouchi K, Aoyama J, Tsukamoto K (2011) Head shape polymorphism in Japanese eels *Anguilla japonica* in relation to somatic growth in the Kojima Bay-Asahi River system, Japan. *Journal of Fish Biology* [In press].
  21. Shinoda A, Aoyama J, Miller MJ, Otake T, Mochioka N, Watanabe S, Minegishi Y, Kuroki M, Yoshinaga T, Yokouchi K, Fukuda N, Sudo R, Hagihara S, Zenimoto K, Suzuki Y, Oya M, Inagaki T, Kimura S, Fukui A, Lee TW, Tsukamoto K. (2011) Evaluation of the larval distribution and migration of the Japanese eel in the western North Pacific. *Reviews in Fish Biology and Fisheries* [In press].
  22. Yokouchi K, Aoyama J, Miller MJ, McCarthy TK, Tsukamoto K. (2011) Depth distribution and biological characteristics of the European eel (*Anguilla anguilla*) in Lough Ennell, Ireland. *Journal of Fish Biology* [In press].
  23. S. Kaneda, K. Ono, T. Fukuba, T. Nojima, T. Yamamoto and T. Fujii, "Pneumatic handling of droplets on-demand on a microfluidic device for seamless processing of reaction and electrophoretic separation" *Electrophoresis*, 31, pp. 3719-3726, 2010

#### (4) アウトリーチ活動

##### ①海洋アライアンスシンポジウム (別添D: チラシ及び概要集)

東京大学における海洋研究を学内外にアピールするため、第5回海洋アライアンスシンポジウムを開催した。今回のシンポジウムでは、「大気から深海までを探る」「海を知る技術」「世界の海を知るために」という3つのセッションで行われ、海洋アライアンスならではの幅広い研究・教育活動についての発表を行った。特に横断型教育プログラム「海洋学際教育プログラム」を履修している大学院生3名による、フィリピン・マニラで開催された国際会議に出席して、現場で学んだ内容が報告された。こうした報告はこれまでにないもので、教育成果の一つとして評価された。

開催日: 2010年7月12日(月)  
開催場所: 東京大学理学部 小柴ホール  
参加者数: 241名

プログラム:

##### 【地球システムとしての海】

企画の趣旨: 木暮一啓 (大気海洋研究所)

—大気から深海までを探る—

企画の趣旨: 木暮一啓 (大気海洋研究所)

気候システムにおける海洋: 渡部雅浩 (大気海洋研究所)

深海の雲と微生物: 砂村倫成 (理学系研究科)

耳石から魚の生活史を探る: 黒木真理 (総合研究博物館)

—海を知る技術—

(案)

海洋環境モニタリングのための新技術開発：福場辰洋（生産技術研究所）  
海洋エネルギーの利用実用化にむけて：高木 健（新領域創成科学研究科）  
—世界の海を知るために—  
PEMSEA Youth Forum 報告：持留宗一郎（公共政策大学院、学生）  
高砂友里子（学際情報学府、学生）  
神山龍太郎（農学生命科学研究科、学生）  
国連海洋法条約における海洋科学調査とは何か：許 淑娟（公共政策大学院）  
「うみあるき」ICTプラットフォーム：松浦正浩（公共政策大学院）

## ②女子中高生、女子大学生向け

### 「海のプロフェッショナル—海洋学への招待状—」出版記念セミナー

(別添E：書籍のチラシ、セミナー案内チラシおよび概要集 参照)

2008年度海洋アライアンス・イニシアティブとして採択された研究計画が、窪川かおる編・女性海洋研究者チーム著「海のプロフェッショナル」として、女子中高生のための進路選択のテキスト本として結実したことを記念して、女子中高生および女子大学生向けにセミナーを開催した。講演者の海に関わる職業に就く女性のロールモデルを中高生・大学生が知る良い機会となり、進路相談も設けられ、海に関心を持つ女性が増えることを期待させるセミナーであった。

開催日：平成23年1月29日（土）  
開催場所：駒場キャンパス、学際交流ホール  
参加者数：134名

#### プログラム概要

出版記念セミナー開催の初めに：窪川かおる（理学系研究科）

—セッション1 “学生生活” —

「理系女子大学院生ライフ—自然と人と自分と向き合う—」：

菅澤承子（農学生命科学研究科）

ほか4名

—セッション2 ポスター“海の研究、海の仕事” —

「里海：21世紀の海と人」：橋本英奈（農学生命科学研究科）

ほか14名

—セッション3 “海を仕事する” —

「サンゴ礁環境の研究者」：井上麻夕理（大気海洋研究所）

ほか8名

—進路相談—

## ③東京大学海洋アライアンス・日本財団共同シンポジウム

### 総合海洋基盤（日本財団）プログラム「我が国における海洋教育および研究のあり方」

(別添F：案内チラシおよび レジメ 参照)

日本財団からの助成を得て、「総合海洋基盤（日本財団）プログラム」を2008年4月に開始し、文系理系の200名を越える本学の研究者を基礎としておこなわれた研究・教育の3年間の成果および本年4月から始まる第2期における新たな展開を紹介し、横串型の海洋研究の展開と新たな人材の育成について、外国人講演者や各界からのパネリストを招聘し議論した。今後とも国際的かつ総合的な海洋管理をめざす「海洋基本法」を支える研究基盤の構築と、海洋政策の実現を担う人材の育成に努めることを決意したシンポジウムであった。

(案)

開催日：平成23年3月4日（金）  
開催場所：日本財団ビル、1階、パウールーム  
参加者数：157名

#### プログラム

第1部：東京大学における海洋研究の横串型の取り組み

司会：木暮一啓（大気海洋研究所）

1. 総合海洋基盤（日本財団）プログラムの展開：浦 環（生産技術研究所）
2. 海洋政策学の成果と展望：城山英明（公共政策大学院）
3. 学際海洋学の成果と展望：福代康夫（アジア生物資源環境研究センター）
4. 横断的研究課題「イニシアチブ」の成果：許 淑娟（元公共政策大学院）

第2部：東京大学の大学院における海洋教育の学際的連携

司会：八木信行（農学生命科学研究科）

5. 大学院修士課程における横型履修認定プログラム：木村伸吾（新領域創成科学研究科）
6. 海洋問題演習・インターンシップへの参加：持留宗一郎（公共政策大学院）
7. COP10など国際集会への参加：三上翔太（農学生命科学研究科）

第3部：海外における学際的な海洋研究および海洋教育

司会：福島朋彦（海洋アライアンス）

8. 中国における取り組み：李 巍然（中国海洋大学）
9. 米国における取り組み（1）：Robert Thompson（ロードアイランド大学）
10. 米国における取り組み（2）：Porter Hoagland（ウッズホール海洋研究所）

第4部：横串型の海洋研究の展開と新たな人材の育成

司会：藤井輝夫（生産技術研究所）

11. 東京大学海洋アライアンスの新たな展開：浦辺徹郎（理学系研究科）
12. パネル討論「大学に期待するもの」

パネリスト：岩田真二郎（株式会社 日立製作所）

海野 光行（日本財団）

小池 勲夫（学術審議会海洋開発分科会）

近藤 和行（株式会社 読売新聞社）

野村 一郎（元国連食糧農業機関）

三上 正裕（外務省）

米田 浩（国土交通省）

#### ④ポータルサイト運営

海洋アライアンスの活動紹介と海洋研究の最前線を周知するため、海洋アライアンスのポータルサイト（和文、英文）を運営している。

「最新情報」欄では、主催はもとより、共催・協賛・後援しているシンポジウムの案内や海洋アライアンスメンバーの学術賞の受賞等を掲載し、「学内向け情報」欄では、学生やメンバー向けの情報（イニシアティブの申請書書式のダウンロードなど）を掲載している。

（2010年）

4月 1日：全ページ更新

4月 9日：海洋学際教育プログラム開講科目表更新

4月12日：出前授業更新

4月19日：知の羅針盤更新

5月12日：学生レポート作成

6月 3日：出前授業詳細情報

6月16日：推進委員リスト更新、英語版更新

(案)

- 6月22日：リンク集
  - 7月12日：推進委員修正
  - 7月23日：お知らせ読み込み部分開発
  - 7月30日：推進委員修正
  - 8月4日：出前授業詳細情報修正
  - 9月21日：出前授業詳細情報修正
  - 9月29日：出前授業詳細情報修正
  - 10月13日：知の羅針盤更新
  - 10月15日：教育プログラム更新
  - 11月10日：知の羅針盤更新
  - 11月12日：出前授業詳細情報修正
  - 12月13日：知の羅針盤更新
  - 12月14日：シンポジウムフォーム作成
- (2011年)
- 1月18日：出前授業F & Q修正
  - 1月25日：出前授業詳細情報修正
  - 1月28日：知の羅針盤改修

⑤出前授業（別紙7：出前授業実施一覧）

小中高校生を対象にしたアウトリーチ活動の一環として出前授業を企画・実施しており、申込みはWeb申請とし、今年度は25件実施した。小中学校の理科の教員を対象にしたものや水産・海洋関係者への講義等も依頼されており、日程的に調整がつく教員は、積極的に実施に努めている。

(2010年)

- 5月17日：東京都、桜美林高校 福島朋彦特任准教授「沖ノ鳥島から学ぼう」
- 6月2日：大田区立荻中小学校（区立の理科の教員対象）  
青山潤特任准教授「ウナギの大回遊の謎」
- 6月5日：飯田市、龍江小学校 高橋鉄哉特任講師「海が汚れる理由」
- 6月12日：東京都、桜美林高校 木村伸吾教授「食べておいしい魚の話—ウナギとマグロの大回遊」
- 6月27日：北区立王子第二小学校 八木信行特任准教授「世界の魚と私たち」
- 7月8日：葛飾区立松上小学校 八木信行特任准教授「世界の魚と私たち」
- 9月11日：東京都、広尾学園 松本良教授「ガスハイドレードって何？」
- 9月15日：富山県、片山学園中学校 福代康夫教授「船にヒッチハイクする生物」
- 9月16日：長野県、松本第一高校 浦環教授「海を拓く海中ロボット」
- 10月7日：板橋区立中台小学校 福島朋彦特任准教授「海の生き物あれこれ」
- 10月12日：桐生第一高等学校 八木信行特任准教授「世界の魚と私たち」
- 10月18日：埼玉県、花咲徳栄高等学校 浦環教授「海を拓く海中ロボット」
- 10月26日：長崎県、(財)長崎県産業振興財団（海洋関係者対象） 鈴木英之教授  
「海の自然エネルギー」
- 10月29日：千葉県立千葉中学校 松本良教授「ガスハイドレードって何？」
- 11月4日：神奈川県立伊志田高等学校 佐野光彦教授「サンゴ礁の海が今、危ない」
- 11月9日：茨城県立土浦第二高等学校 鈴木英之教授「海の自然エネルギー」
- 11月11日：青森県立青森高等学校 佐藤徹教授「CO<sub>2</sub>海洋隔離技術」
- 11月15日：神奈川県立座間高等学校 佐藤慎司教授「海岸浸食と沿岸防災」
- 11月17日：東京都立国分寺高等学校 浦辺徹郎教授「深海底に生物の起源を探す」
- 11月18日：福井県、上志比中学校 青山潤特任准教授「ウナギの大回遊の謎」
- 12月8日：本学で実施：山口県、慶進中学校 福島朋彦特任准教授

(案)

「海の生き物あれこれ」

1 2 月 8 日： 本学で実施：茨城県、つくば秀英高等学校 浦辺徹郎教授  
「深海底に生物の起源を探す」

(2011年)

1 月 2 7 日： 東京都、入新井第五小学校 浦 環教授「海を拓く海中ロボット」

2 月 4 日： 東京都、梅田小学校 青山 潤特任准教授「海を旅するもの」

#### ⑥知の羅針盤 (別紙8：知の羅針盤一覧)

ポータルサイトの一部に「知の羅針盤」コーナーを設け、海洋問題を分かりやすく解説することを企画しており、前年度のイニシアティブの採択者に執筆を依頼し、公開している。昨年度の13件に今年度は24件を加えて、ラインナップし、認知度を高めるための工夫を検討中である。

海洋利用のコストとベネフィット評価「これから注意すべき点」

(農学生命科学研究科 八木信行)

農学生命科学研究科 古谷 研)

次世代海洋研究者の育成「お父さんお母さん船に乗る～明日の海洋科学サポーター～」

(大気海洋研究所 浜崎恒二)

陸と海のつながりと海洋生態系「陸域の人間活動からの海洋の保全(概要)」

「地球海洋の富栄養化対策」

「各国の富栄養化対策」

「自然現象としての富栄養化問題」

(新領域創成科学研究科 高橋鉄哉)

陸と海のつながりと海洋生態系「日本の沿岸域海洋モニタリング状況」

(新領域創成科学研究科 高橋鉄哉・

生産技術研究所 福場辰洋)

海洋深層水の利用「持続可能な社会構築に向けた「海洋深層水」利用実験サイト」

(工学系研究科 大内一之)

うみあるきとは?—システム開発の目的と方針

「お台場実証実験」

「うみあるきとは?—システム開発の目的と方針」

(公共政策大学院 松浦正浩)

「海」から展開する情報プラットフォームとネットワーク

「沿岸域での問題(1)有明海の視察から」

(国際海洋研究所(IOI)日本支部 大塚万紗子)

「沿岸域における陸域—海域相互作用研究計画(LOICZ)」

(新領域創成科学研究科 山室真澄)

現代の海賊問題と日本「日本における海上物流の重要性と海賊リスク」

「マラッカ・シンガポール海峡、アデン湾における海賊事件」

(公共政策大学院 長谷知治)

「海賊をめぐる国際的な協力」

(公共政策大学院 許 淑娟)

「日本の海賊法制」

(法学政治学研究科 中谷和弘)

「海賊行為と戦う民間護衛会社」

(グリフィス大学(オーストラリア) カロリン・リス)

「国際法上の海賊の定義—「人類共通の敵」?」

(公共政策大学院 許 淑娟・明治大学法科大学院 奥脇直也)

沿岸域利用についての合意形成メカニズムの評価検討



(案)

「日本型海洋保護区を巡る合意形成の特徴」

(農学生命科学研究科 八木信行)

大学における学際的海洋教育研究

「学際的海洋教育とその延長上の問題」

(海洋アライアンス 福島朋彦)

「学際的な海洋教育とはなにか (その1. 「学際研究」とは)」

「学際的な海洋教育とはなにか (その2. 「学際研究」の進め方)」

「学際的な海洋教育とはなにか (その3. 「学際海洋学」と「学際的海洋教育」)」

(大気海洋研究所 野村英明・農学生命科学研究科 古谷 研)

「日米の大学院教育比較から見たこれからの海洋教育像」

(農学生命科学研究科 八木信行)

#### ⑦イブニングセミナー (別紙9：イブニングセミナー実施一覧)

海洋アライアンスに参加する学内研究者の連携を密にするために数カ月に1回企画し実施しており、理工農学系と人文法学系の研究者による意見交換が活発に行われている。

(2010年)

5月21日：第9回イブニングセミナー開催

講師及びテーマ：

アジア生物資源環境研究センター 福代康夫教授

「船舶による海洋生物移動の規制に関わる最近の動向」

7月29日：第10回イブニングセミナー開催

講師及びテーマ：

工学系研究科 定木 淳准教授

工学系研究科 小田部 翔 修士課程2年

海上技術安全研究所 中島康晴

「海底熱水鉱床の海底選鉱」

9月21日：第11回イブニングセミナー開催

講師及びテーマ：

海洋生物の多様性保全と利用に関する学生フォーラム・学生メンバー一同

「1. 海洋保護区：自主管理している人々の本音」

「2. 生物多様性レシピ：未来につながる今日のごはん」

「3. 里海：21世紀の海と人」

#### (5) 研究支援活動

海洋に関する知識の普及啓発を目的としてワークショップおよび外国人講演会の開催支援、ならびに萌芽的研究支援のためのイニシアティブの募集を行っているが、今年度は外国人講演会の申請はなかった。

#### ①ワークショップ (別紙10：ワークショップ一覧)

ワークショップ応募3件：採択3件(約1,500,000円)

7月9日：「海底資源開発を目指した海底観測機器開発の最先端2010」

参加者数 171名

10月16日：「沿岸生物多様性の将来を考える」

参加者数 21名

12月10日：「築地市場の将来像：水産物価格形成の国際比較」

参加者数 28名

②イニシャティブ（別紙11：特別審議委員会名簿、別紙12：イニシャティブ一覧）

海洋に関わるさまざまな課題に対するシンクタンク機能の形成と実行を「イニシャティブ」として育成・支援していくこととし、具体的には、「海に関わる」さまざまな課題に対するシンクタンクや勉強会の立ち上げ、ワークショップやシンポジウムの開催、教科書・データベースの作成、青少年に対する教育普及活動等を行う事業に対し支援するもので、前期・後期に分けて学内から募集し、1件につき最高150万円を限度として実施している。2010年度については、前期9件、後期4件を採択し、学内外の研究者を加えて活発な活動が行われている。

なお、2008年度採択された、窪川かおる氏（当時海洋研究研教授、現理学系研究科特任教授）のイニシャティブ「海洋学者育成のためのテキスト出版—女性研究者からのメッセージ—」は、今年度、東海大学出版会から『海のプロフェッショナル』として出版される運びとなり、女子中高大学生に広く読まれている。

(2010年)

2月24日：特別審議委員会において、2010年度前期イニシャティブの選考を審議

3月 2日：第10回運営委員会において決定（応募9件、採択9件、11,950,000円）

- a) 横型ネットワークによる離島の保全・管理や振興に関する施策の提言（高木教授、領域）
- b) 「里海」の成立メカニズムを科学する（八木特任准教授、農）
- c) 海洋生物の多様性保全と利用に関する学生フォーラム（佐野教授、農）
- d) 学際的海洋教育に関する研究（福島特任准教授、OA）
- e) 海底鉱物資源の開発に関する研究会（浦辺教授、理）
- f) 海洋科学調査をめぐる法的諸問題（許特任講師、公共）
- j) 国際海洋ネットワーク構築（木暮教授、大海研）
- h) 相模湾の深海を探る海洋学際プログラム（近藤准教授、理）
- i) 法と合意に基づく統合的沿岸域管理の枠組み検討（交告教授、法）

(2010年)

6月29日：特別審議委員会において、2010年度後期イニシャティブの選考を審議

7月 6日：第4回運営委員会において決定（応募4件、採択4件、5,460,000円）

- a) 海面上昇に対する沖ノ鳥島の生態工学的維持（茅根教授、理）
- b) 海水魚は地球温暖化・海洋酸性化の緩和に貢献できるか？：学際的グループの立ち上げ（武井教授、大海研）
- c) 離島の振興と離島をモデルにした海洋管理に関する総合的研究（長谷特任准教授、公共）
- d) うみあるき2.0の開発（松浦特任准教授、公共）

以 上

東京大学海洋アライアンス・平成22年度助成事業進行報告書  
添付書類一覧

- A 海洋アライアンス概要パンフレット
- B 東京大学横断型教育プログラム（2010年版）
- C 「海洋学際教育プログラム」開講科目講義シラバス
- D 海洋アライアンスシンポジウム 第5回東京大学の海研究「地球システムとしての海」  
チラシおよび概要集
- E 「海のプロフェッショナル―海洋学への招待状―」書籍チラシ  
“海のプロフェッショナル―海洋学への招待状―”出版記念セミナー  
チラシおよび要旨集
- F 東京大学海洋アライアンス・日本財団共同シンポジウム  
「我が国における海洋教育および研究のあり方」チラシおよび配布資料

- 別紙1 構成員名簿
- 別紙2 評議会委員名簿
- 別紙3 推進委員会委員名簿
- 別紙4 運営委員会委員名簿
- 別紙5 教育プログラム作業委員会委員名簿
- 別紙6 全学体験ゼミナール
- 別紙7 出前授業実施一覧
- 別紙8 知の羅針盤一覧
- 別紙9 イブニングセミナー実施一覧
- 別紙10 ワークショップ実施一覧
- 別紙11 特別審議委員会委員名簿
- 別紙12 イニシアティブ採択一覧

## 平成22年度 海洋アライアンス 構成員名簿(教員)

職名	氏名	所属	備考
機構長	浦 環	生産技術研究所	教授
副機構長	浦辺 徹郎	理学系研究科	教授
副機構長	木暮 一啓	大気海洋研究所	教授
副機構長	木村 伸吾	新領域創成科学研究科(大気海洋研究所兼務)	教授
海洋政策学ユニット長	城山 英明	公共政策大学院(法学政治学研究科兼務)	教授
学際海洋学 ユニット長	福代 康夫	アジア生物資源環境研究センター	教授
平塚沖総合実験タワーオフィッサー	林 昌奎	生産技術研究所	教授
海洋教育促進研究センター長	佐藤 学	教育学研究科	教授
機構本部特任准教授	◎福島 朋彦	海洋アライアンス	特任准教授
海洋政策学 ユニット特任准教授	◎長谷 知治	公共政策大学院	特任准教授
海洋政策学ユニット特任准教授	◎松浦 正浩	公共政策大学院	特任准教授
海洋政策学ユニット特任講師	◎許 淑娟	公共政策大学院	特任講師(～9.30まで)
海洋政策学ユニット特任助教	◎西本健太郎	公共政策大学院	特任助教(10.1～)
学際海洋学ユニット特任講師	◎高橋 鉄哉	新領域創成科学研究科	特任講師
学際海洋学ユニット特任准教授	◎福場 辰洋	生産技術研究所	特任准教授
学際海洋学ユニット特任准教授	◎八木 信行	農学生命科学研究科	特任准教授
学際海洋学ユニット特任准教授	◎青山 潤	大気海洋研究所	特任准教授
海洋教育促進研究センター特任教授	△窪川かおる	理学系研究科	特任教授(11.16～)
海洋教育促進研究センター特任准教授	△丹羽 淑博	理学系研究科	特任准教授(2011.2.16～)
海洋教育促進研究センター特任講師	△河野麻沙美	海洋アライアンス	特任講師(2011.1.1～)
機構本部特任研究員	◎野村 英明	大気海洋研究所	特任研究員

◎:総合海洋基盤(日本財団)プログラムによる採用者

△:海洋教育促進研究センター(日本財団)プログラムによる採用者

## 平成22年度 海洋アライアンス 構成員名簿(支援部局職員・職員)

職 名	氏 名	所 属	備 考
支援部局長	西田 睦	大気海洋研究所	所長
事務支援(統括)	池田 貞雄	大気海洋研究所	事務部長
事務支援(統括)	吉田 雅彦	大気海洋研究所	総務課長
事務支援(会計)	山岸 公明	大気海洋研究所	経理課長
事務支援(会計)	桶谷 文紀	大気海洋研究所	経理課主査
事務支援(会計)	大浦 輝一	大気海洋研究所	経理課係長
事務支援(会計)	酒井 勝	大気海洋研究所	経理課係長(～6.30)
事務支援(会計)	荻野 久憲	大気海洋研究所	経理課係長(7.1～)
事務支援(教育)	武井 和夫	新領域創成科学研究科	事務長
事務支援(教育)	米山 永子	新領域創成科学研究科	専門職員
事務支援(教育)	小杉 真人	新領域創成科学研究科	教務係長(7.1～)
事務支援(教育)	和田 一弘	新領域創成科学研究科	教務係員
事務支援(タワー)	松本 武彦	生産技術研究所	財務・監査チーム係長
事務支援(海洋リテラシー)	生田目金雄	理学系研究科等	経理課長(10.1～)
事務支援(海洋リテラシー)	山村 仁子	理学系研究科等	研究支援・外部資金チーム係長(10.1～)
特任専門員	◎大澤 悦子	海洋アライアンス	機構本部事務
特任専門職員	◎齋藤 優	海洋アライアンス	教育事務
学術支援専門職員	△小山久美子	理学系研究科	海洋教育促進研究センター事務(11.16～)
事務補佐員	◎宮川 一枝	海洋アライアンス	本郷事務(～7.31)
事務補佐員	◎安澤 美合	海洋アライアンス	本郷事務
事務補佐員	◎北島 靖子	海洋アライアンス	機構本部事務
事務補佐員	◎岡 知世	新領域創成科学研究科	教育事務(～10.31)
事務補佐員	◎吉田 彰子	新領域創成科学研究科	教育事務(11.1～)
事務補佐員	△太田あゆみ	理学系研究科	海洋教育促進研究センター事務(10.16～)

◎:総合海洋基盤(日本財団)プログラムによる採用者

△:海洋教育促進研究センター(日本財団)プログラムによる採用者

## 平成22年度 海洋アライアンス 評議会委員名簿

	氏名	所属	職名
委員長	浦 環	生産技術研究所	機構長
委員	浦辺 徹郎	大学院理学系研究科	副機構長
委員	木暮 一啓	大気海洋研究所	副機構長
委員	木村 伸吾	大学院新領域創成科学研究科	副機構長
委員	武藤 芳照	大学院教育学研究科長	研究科長
委員	山形 俊男	大学院理学系研究科	研究科長
委員	北森 武彦	大学院工学系研究科	研究科長
委員	生源寺 眞一	大学院農学生命科学研究科	研究科長
委員	大和 裕幸	大学院新領域創成科学研究科	研究科長
委員	平田 直	地震研究所	所長
委員	野城 智也	生産技術研究所	所長
委員	西田 睦	大気海洋研究所	所長
委員	田邊 國昭	大学院公共政策学連携研究部長 (公共政策大学院)	研究部長(院長)

13名

## 平成22年度 海洋アライアンス 推進委員会委員名簿

	氏名	所属	専攻等	職名	
委員長	浦 環	生産技術研究所	海中工学国際研究センター	教授	
委員	佐藤 学	教育学研究科	学校教育高度化専攻	教授	
委員	城山 英明	公共政策大学院		教授	
委員	中谷 和弘			教授	
委員	松尾 基之	総合文化研究科	広域科学専攻	教授	
委員	奥野 誠			准教授	
委員	赤坂 甲治	理学系研究科	生物科学専攻(臨海実験所)	教授	
委員	岡 良隆		生物科学専攻	教授	
委員	浦辺 徹郎		地球惑星科学専攻		教授
委員	松本 良				教授
委員	日比谷 紀之				教授
委員	佐藤 慎司				教授
委員	佐藤 慎司	工学系研究科	社会基盤学専攻	教授	
委員	玉木 賢策		システム創成学専攻		教授
委員	村山 英晶				准教授
委員	定木 淳				准教授
委員	古谷 研	農学生命科学研究科	水圏生物科学専攻	教授	
委員	黒倉 寿		農学国際専攻	教授	
委員	岡本 研		生圏システム学専攻	准教授	
委員	木村 伸吾	新領域創成科学研究科 環境学研究系	自然環境学専攻(海洋研兼務)	教授	
委員	高木 健		海洋技術環境学専攻		教授
委員	佐藤 徹				教授
委員	早稲田 卓爾		環境システム学専攻		准教授
委員	多部田 茂				准教授
委員	稗方 和夫			人間環境学専攻	准教授
委員	磯部 雅彦			社会文化環境学専攻	教授
委員	歌田 久司		地震研究所	海半球観測研究センター	教授
委員	篠原 雅尚	地震予知研究センター		教授	
委員	ROGER DALE SMITH	東洋文化研究所		准教授	
委員	林 昌奎	生産技術研究所	機械・生体系部門	教授	
委員	藤井 輝夫		マイクロナノメカトロニクス 国際研究センター	教授	
委員	保立 道久	史料編纂所		教授	
委員	木暮 一啓	大気海洋研究所	地球表層圏変動研究センター	教授	
委員	蒲生 俊敬		海洋地球システム研究系		教授
委員	津田 敦				准教授
委員	羽角 博康		気候システム研究系	准教授	
委員	福代 康夫	アジア生物資源環境研究センター		教授	
委員	福島 朋彦	海洋アライアンス	機構本部	特任准教授	
委員	長谷 知治	総合海洋基盤(日本財団) プログラム	海洋政策学ユニット	特任准教授	
委員	八木 信行		学際海洋学ユニット	特任准教授	

## 平成22年度 海洋アライアンス 運営委委員会委員名簿

	氏 名	所 属	職 名
委員長	浦 環	生産技術研究所	教授
委員	浦 辺 徹 郎	大学院理学系研究科	教授
委員	木 暮 一 啓	大気海洋研究所	教授
委員	木 村 伸 吾	大学院新領域創成科学研究科・ 大気海洋研究所兼務	教授
委員	城 山 英 明	公共政策連携研究部・大学院法学政治学研究科兼 務・海洋政策学ユニット兼務	教授
委員	村 山 英 晶	大学院工学系研究科	准教授
委員	藤 井 輝 夫	生産技術研究所	教授
委員	福 代 康 夫	アジア生物資源環境研究センター・学際海洋学ユニッ ト兼務	教授
委員	古 谷 研	大学院農学生命科学研究科	教授
委員	林 昌 奎	生産技術研究所・タワーオフィッサー兼務	教授

10名



## 平成22年度 海洋アライアンス 特別審議委員会委員名簿

	氏名	所属	専攻等	職名
委員長	浦辺徹郎	理学系研究科	地球惑星科学専攻	教授
委員	浦環	生産技術研究所	海中工学国際研究センター	教授
委員	木暮一啓	大気海洋研究所	海洋生態学系動態部門	教授
委員	木村伸吾	新領域創成科学研究科	環境学研究系 自然環境学専攻(大気海洋研 兼務)	教授
委員	中谷和弘	法学政治学研究科(公共政策大学院兼務)		教授
委員	城山英明	公共政策大学院(法学政治学研究科兼務)		教授
委員	松尾基之	総合文化研究科	広域科学専攻	教授
委員	赤坂甲治	理学系研究科	生物科学専攻 (臨海実験所)	教授
委員	玉木賢策	工学系研究科	システム創成学専攻	教授
委員	村山英晶			准教授
委員	古谷研	農学生命科学研究科	水圏生物科学専攻	教授
委員	磯部雅彦	新領域創成科学研究科	環境学研究系 社会文化環境学専攻	教授
委員	高木健		環境学研究系 海洋技術環境学専攻	教授
委員	林昌奎	生産技術研究所	機械・生体系部門	教授
委員	歌田久司	地震研究所	海半球観測研究センター	教授
委員	ROGER DALE SMITH	東洋文化研究所	東洋学研究情報センター	准教授
委員	藤井輝夫	生産技術研究所	マイクロナノメカトロニクス 国際研究センター	教授
委員	保立道久	史料編纂所		教授
委員	福代康夫	アジア生物資源環境研究センター		教授
委員	羽角博康	大気海洋研究所	気候システム研究系	准教授

19名

## 平成22年度 海洋アライアンス 教育プログラム作業委員会委員名簿

	氏名	所属	専攻等	職名
主査	浦 環	生産技術研究所	海中工学国際研究センター	教授
副査	浦辺 徹郎	大学院理学系研究科	地球惑星科学専攻	教授
副査	木村 伸吾	大学院新領域創成科学研究科	環境学研究系 自然環境学専攻 (大気海洋研究所兼務)	教授
委員	城山 英明	公共政策大学院(大学院法学政治学研究科兼務)		教授
委員	赤坂 甲治	大学院理学系研究科	生物科学専攻 (臨海実験所)	教授
委員	佐藤 慎司	大学院工学系研究科	社会基盤学専攻	教授
委員	村山 英晶		システム創成学専攻	准教授
委員	古谷 研	大学院農学生命科学研究科	水圏生物科学専攻	教授
委員	黒倉 寿		農学国際専攻	教授
委員	山口 一	大学院新領域創成科学研究科	環境学研究系 海洋技術環境学専攻	教授
委員	交告 尚史	法学政治学研究科(公共政策大学院兼務)		教授

11名

平成22年度 全学体験ゼミナール：海で学ぶ―臨海実験所における海洋体験実習―

日 程	ゼミ実施期間： 8月 2日(月)～8月 4日(水)(2泊3日)
実施場所	神奈川県三崎市 東京大学大学院理学系研究科・理学部附属臨海実験所
担当教員	早稲田卓爾、赤坂甲治、浦辺徹郎、山本光夫、吉田学、巻俊宏、福島朋彦
参加学生数	18名
実習概要	第一日目 午後：ガイダンス、海岸の地質見学、セミナーシリーズ 夜：棧橋における観察(灯火採集) 第二日目 午前：臨海丸乗船実習 午後：セミナーシリーズ 実習(ROV、和船操船、海水分析、顕微鏡観察) 第三日目 午前：実習(ROV、和船操船、海水分析、顕微鏡観察) 午後：セミナーシリーズ、油壺マリンパーク水族館

## 平成22年度 海洋アライアンス 出前授業実施一覧

番号	教員	所属	職名	タイトル	実施日	都道府県名	学校名	対象区分
1	福島朋彦	海洋アライアンス	特任准教授	沖ノ鳥島から学ぼう	5月17日(月)	東京都	桜美林高校	高校生
2	青山潤	大気海洋研究所	特任准教授	ウナギの大回遊の謎	6月2日(水)	東京都	大田区立萩中小学校	理科の先生
3	高橋鉄哉	新領域創成科学研究科	特任講師	海が汚れる理由	6月5日(土)	長野県	飯田市龍江小学校	小学生
4	木村伸吾	新領域創成科学研究科	教授	食べておいしい魚の話ーウナギとマグロの大回遊	6月12日(土)	東京都	桜美林高校	高校生
5	八木信行	農学生命科学研究科	特任准教授	世界の魚と私たち	6月27日(日)	東京都	北区立王子第二小学校	小学生
6	八木信行	農学生命科学研究科	特任准教授	世界の魚と私たち	7月8日(木)	東京都	葛飾区立松上小学校	小学生
7	松本良	理学系研究科	教授	ガスハイドレートって何？	9月11日(土)	東京都	広尾学園	高校生
8	福代康夫	アジア生物資源環境研究センター	教授	船にヒツチハイクする生物	9月15日(水)	富山県	片山学園中学校	中学生
9	浦環	生産技術研究所	教授	海を拓く海中ロボット	9月16日(木)	長野県	松本第一高校	高校生
10	福島朋彦	海洋アライアンス	特任准教授	海の生き物あれこれ	10月7日(木)	東京都	板橋区立中台小学校	小学生
11	八木信行	農学生命科学研究科	特任准教授	世界の魚と私たち	10月12日(火)	群馬県	桐生第一高等学校	高校生
12	浦環	生産技術研究所	教授	海を拓く海中ロボット	10月18日(月)	埼玉県	花咲徳栄高等学校	高校生
13	鈴木英之	新領域創成科学研究科	教授	海の自然エネルギー	10月26日(火)	長崎県	(財)長崎県産業振興財団佐世保事業所	一般
14	松本良	理学系研究科	教授	ガスハイドレートって何？	10月29日(金)	千葉県	千葉県立千葉中学校	中学生
15	佐野光彦	農学生命科学研究科	教授	サンゴ礁の海が今、危ない	11月4日(木)	神奈川県	神奈川県立伊志田高等学校	高校生
16	鈴木英之	新領域創成科学研究科	教授	海の自然エネルギー	11月9日(火)	茨城県	茨城県立土浦第二高等学校	高校生
17	佐藤徹	新領域創成科学研究科	教授	CO2海洋隔離技術	11月11日(木)	青森県	青森県立青森高等学校	高校生
18	佐藤慎司	工学系研究科	教授	海岸侵食と沿岸防災	11月15日(月)	神奈川県	神奈川県立座間高等学校	高校生
19	浦辺徹郎	理学系研究科	教授	深海底に生物の起源を探す	11月17日(水)	東京都	東京都立国分寺高等学校	高校生
20	青山潤	大気海洋研究所	特任准教授	ウナギの大回遊の謎	11月18日(木)	福井県	上志比中学校	中学生
21	福島朋彦	海洋アライアンス	特任准教授	海の生き物あれこれ	12月8日(水)	山口県	慶進中学校	中学生
22	浦辺徹郎	理学系研究科	教授	深海底に生物の起源を探す	12月8日(水)	茨城県	つくば秀英高校	高校生
23	浦環	生産技術研究所	教授	海を拓く海中ロボット	1月27日(木)	東京都	入新井第五小学校	小学生
24	青山潤	大気海洋研究所	特任准教授	海を旅するもの	2月14日(月)	東京都	梅田小学校	小学生

## 平成22年度 海洋アライアンス 知の羅針盤一覧

カテゴリ	タイトル	研究者	所属	職名
海洋深層水の利用	持続可能な社会構築に向けた「海洋深層水」利用実験サイト	大内一之	工学系研究科	非常勤講師
	お台場実証実験 うみあるきとは？－システム開発の目的と方針	松浦正浩	公共政策大学院	特任准教授
「海」から展開する情報プラットフォームとネットワーク	沿岸域での問題(1)有明海の視察から	大塚万紗子	国際海洋研究所(IOI) 日本支部	事務局長
	沿岸域における陸域－海域相互作用研究計画(LOICZ)	山室真澄	新領域創成科学研究科	教授
	日本における海上物流の重要性と海賊のリスク	長谷知治	公共政策大学院	特任准教授
	マラッカ・シンガポール海峡、アデン湾における海賊事件	長谷知治	公共政策大学院	特任准教授
	海賊をめぐる国際的な協力	許 淑娟	公共政策大学院	非常勤講師
	日本の海賊法制	中谷和弘	法学政治学研究科	教授
	海賊行為と戦う民間護衛会社	カロリン・リス	グリフィス大学 (オーストラリア)	リサーチ フェロー
	国際法上の海賊の定義－「人類共通の敵」？	許 淑娟 奥脇直也	公共政策大学院 明治大学法科大学院	非常勤講師 東大名譽教授
	日本型海洋保護区を巡る合意形成の特徴	八木信行	農学生命科学研究科	特任准教授
	学際的海洋教育とその延長上の問題	福島朋彦	海洋アライアンス	特任准教授
沿岸域利用についての合意形成メカニズムの評価検討	学際的な海洋教育とはなにか (その1)「学際研究」とは	野村英明 古谷 研	大気海洋研究所 農学生命科学研究科	特任研究員 教授
	学際的な海洋教育とはなにか (その2)「学際研究」の進め方	野村英明 古谷 研	大気海洋研究所 農学生命科学研究科	特任研究員 教授
	学際的な海洋教育とはなにか (その3)「学際海洋学」と「学際的海洋教育」	野村英明 古谷 研	大気海洋研究所 農学生命科学研究科	特任研究員 教授
	日米の大学院教育比較から見たこれからの海洋教育像	八木信行	農学生命科学研究科	特任准教授

カテゴリ	タイトル	研究者	所属	職名
陸と海のつながりと海洋生態系	陸域の人間活動からの海洋の保全(概要)	高橋鉄哉	新領域創成科学研究科	特任講師
	地球海洋の富栄養化の人為的側面	高橋鉄哉	新領域創成科学研究科	特任講師
	各国の富栄養化対策	高橋鉄哉	新領域創成科学研究科	特任講師
	自然現象としての富栄養化問題	高橋鉄哉	新領域創成科学研究科	特任講師
	日本の沿岸域海洋モニタリング状況	高橋鉄哉 福場辰洋	新領域創成科学研究科 生産技術研究所	特任講師 特任准教授
	先端技術の海洋計測への応用	藤井輝夫	生産技術研究所	教授
	水産業における養殖の重要性と問題	福場辰洋	生産技術研究所	特任准教授
	お父さんお母さん船に乗る ～明日の海洋科学サポーター～	浜崎恒二	大気海洋研究所	准教授
	こどもたち船に乗る ～育て！海洋学者たち～	沖野郷子	大気海洋研究所	准教授
	海洋利用のコストとベネフィット評価 その意義と必要性	八木信行 古谷 研	農学生命科学研究科	特任准教授 教授
海洋に関わる諸活動のコスト・ベネフィット評価	人間による海洋利用が生み出す価値	八木信行 古谷 研	農学生命科学研究科	特任准教授 教授
	人間の経済活動の外部において海洋生態系が生み出している サービシ的な価値	八木信行 古谷 研	農学生命科学研究科	特任准教授 教授
	これから注意すべき点	八木信行 古谷 研	農学生命科学研究科	特任准教授 教授
	海面上昇に対する沖ノ鳥島の維持	茅根 創	理学系研究科地球惑星科学 専攻	教授
沖ノ鳥島再生計画	海底熱水鉱床の特徴とその開発	浦辺徹郎	理学系研究科地球惑星科学 専攻	教授
	「国富」としての海底鉱物資源と法	中谷和弘	法学政治学研究科	教授
	海底熱水鉱床の開発と国内法の課題	交告尚史	公共政策学連携研究部	教授
	環境影響をどのように評価・予測するか	福島朋彦	海洋アライアンス	特任准教授
	海底熱水噴出孔の生態系	小島茂明	大気海洋研究所	教授
	海底熱水噴出孔のアーキアに注目する	砂村倫成	理学系研究科地球惑星科学 専攻	助教

## 平成22年度 海洋アライアンス イブニングセミナー開催一覧

回数	開催日	開催場所	演題	講演者	参加人数
第9回	2010.5.21	工学部3号館3階 306会議室	船舶による海洋生物移動の規制に関わる最近の動向	アジア生物資源環境研究センター 福代 康夫 教授	16名
第10回	2010.7.29	工学部4号館3階 422会議室	海底熱水鉱床の海底選鉱	工学系研究科 定木 淳 准教授 工学系研究科 小田部 翔 修士課程2年 海上技術安全研究所 中島 康晴	11名
第11回	2010.9.21	工学部3号館3階 306会議室	1. 海洋保護区:自主管理している人々の本音 2. 生物多様性シンピ:未来につながる今日のごはん 3. 里海:21世紀の海と人	海洋生物の多様性保全と利用に関する学生フォーラム 学生メンバーー同(10名)	24名

## 平成22年度 海洋アライアンス ワークショップ開催一覧

開催日	名称	開催場所	代表者名	代表者所属	参加人数
2010年7月9日	海底資源開発を目指した海底観測機器 開発の最先端2010	東京大学生産技術研究所大会議室	浦山 英一 環 飯笹 幸吉	生産技術研究所 大気海洋研究所 新領域創成科学研究科	171名
2010年10月16日	沿岸生物多様性の将来を考える	名古屋国際会議場内	八木 信行	農学生命科学研究科	21名
2010年12月10日	築地市場の将来像・水産物価格形成の 国際比較	東京大学農学部3号館4階大会議室	八木 信行	農学生命科学研究科	28名



## 平成22年度 海洋アライアンス イニシヤティブ採択一覧

	イニシヤティブ計画名	代表者名	代表者所属	職名	予算配分 (千円)
前 期	横型ネットワークによる離島の保全・管理や振興に関する施策の提言	高木 健	新領域創成科学研究科	教授	1,000
	「里海」の成立メカニズムを科学する	八木 信行	農学生命科学研究科	特任准教授	1,500
	海洋生物の多様性保全と利用に関する学生フォーラム	佐野 光彦	農学生命科学研究科	教授	1,500
	学際的海洋教育に関する研究	福島 朋彦	海洋アライアンス	特任准教授	1,450
	海底鉱物資源の開発に関する研究	浦辺 徹郎	理学系研究科	教授	1,500
	海洋科学調査をめぐる法的諸問題	許 淑娟	公共政策大学院	特任講師	1,500
	国際海洋ネットワーク構築	木暮 一啓	大気海洋研究所	教授	1,500
	相模湾の深海を採る海洋学際プログラム	近藤 真理子	理学系研究科附属臨海実験所	准教授	1,000
	法と合意に基づく統合的沿岸域管理の枠組み検討	交告 尚史	法学政治学研究科	教授	1,000
	海面上昇に対する沖ノ鳥島の生態工学的維持	茅根 創	理学系研究科	教授	1,500
後 期	海水魚は地球温暖化・海洋酸性化の緩和に貢献できるか？：学際的グループの立ち上げ	竹井 祥郎	大気海洋研究所	教授	1,000
	離島の振興と離島をモデルにした海洋管理に関する総合的研究 うみあるき2.0の開発	長谷 知治 松浦 正浩	公共政策大学院 公共政策大学院	特任准教授 特任准教授	1,500 1,460